

論文番号 165

担当

札幌医科大学 医学部 薬理学講座

題名 (原題/訳)

Fluoxetine in adolescents with major depression and an alcohol use disorder: an open-label trial.

大うつ病とアルコール使用障害を有する青年におけるフルオキセチンの効果：オープンラベル試験
執筆者

Cornelius JR, Bukstein OG, Birmaher B, Salloum IM, Lynch K, Pollock NK, Gershon S, Clark D.

掲載誌 (番号又は発行年月日)

Addict Behav 26(5):735-739 (2001)

キーワード

アルコール使用障害、フルオキセチン、SSRI、オープンラベル試験

要旨

近年、大うつ病の青年を対象とした選択的セロトニン再取り込み阻害薬 (SSRI) による治療の一次プラセボ対照試験が行われ、フルオキセチンの治療効果が示された。しかし、今日まで、大うつ病とアルコール使用障害 (AUD) を有している青年で、SSRI の治療効果について検証した研究はない。本研究では、これらの患者で、フルオキセチンがうつ病の徴候や飲酒を低下させるかどうか検討した。13名の患者でフルオキセチン 20 mg の 12 週間オープンラベル試験を行った。結果は、フルオキセチンは有意な改善効果を示し、うつ病の徴候と飲酒に関してその程度低下した。また、フルオキセチンは試験期間を通じて、(治療上) 十分な耐容性があった。これらの結果は、大うつ病と AUD を併発している青年で、うつ病の症状や飲酒を減少させる治療にフルオキセチンが有望な薬剤であることを示唆している。